



絵金蔵

開館15周年!



15周年記念企画

其の一

映画 闇の中の魑魅魍魎上映会

榎本滋民原作の小説「血みどろ絵金」をもとに、中平康監督、新藤兼人脚本、磨赤兒主演で、今から約50年前の昭和46(1971)年に作られ、絵金の半生をおどろおどろしく描いたお話の映画です。赤岡町や香我美町でも撮影が行われ、当時の地元の人たちが多数エキストラとして出演しています。

上映会/10時・13時・16時・19時(約120分)
 入場料/一般1,000円、高校生以下500円
 (当日は映画上映のみ。館内観覧はできません)



▲映画の一場面
 磨赤兒さん演じる絵金と、加賀まりこさん演じる徳姫が対面している場面です



2/10(月)
 会場:
 絵金蔵



主演・磨赤兒さんの
 ビデオメッセージも
 上映会で限定公開じゃ

香南市赤岡町にある美術館「絵金蔵」が、2月11日に開館15周年を迎えます。今回は、絵金蔵運営委員会・会長の浜田義隆さんに絵金蔵についてお話を伺いました。また、絵金蔵の蔵長(館長)やスタッフの皆さんと、絵金蔵15周年記念企画について紹介します。

広報編集委員 担当/宮崎文敬

絵金ってどんな人?

絵師金蔵、略して絵金。江戸時代から明治時代にかけて活躍した絵師(絵描き)です。もとは、狩野派の御用絵師でしたが、今日では町絵師となつてからの作品が広く県内外に知られています。写真や日記が見つかっておらず、とても謎の多い人物です。

絵金蔵って?

昭和の初めに建てられた米蔵を改築して、建てられた美術館です。赤岡町や香我美町の人たちが所有する絵金の作品を多数収蔵し、絵金祭りや御神祭で飾られる芝居絵屏風の保存と管理を一手に担っています。



▲改築前の米蔵の写真

絵金蔵ができるまで

平成9年から住民参加のワークショップが始まり、赤岡のまちづく

りについての話し合いが進められました。約8年にわたるワークショップ、国の法改正や支援事業の拡充などを経て、絵金蔵は「まちを元気にしたい」という住民の思いから、平成17年に誕生しました。

地域の活性化の拠点に

絵金蔵のコンセプトは、『まもる』『つたえる』『つなげる』の3つ。芝居絵屏風をいつでも見ることができ、作品を収蔵庫で一元管理することで所有者の負担を軽減しています。絵金を次の世代へつないでいくのももちろん、人と人をつなげ地域の活性化の拠点としての役割も担っています。

浜田さんは、開館から15年経ちましたが、地域の活性化はまだまだこれから。絵金蔵をきっかけに若い人たちが赤岡に腰を据えて新しい事業を興し、その取り組みの流れが香南市全体に広がって欲しい」と語られました。

2/8.9.11
 (土)・(日)・(火)
 の3日間

其の一

①入館料割引

大人300円、高校生以下無料

②プレゼントまち歩き

赤岡町内の商店でプレゼントがもらえる引換券を3日間、毎日先着30人に配布します。どこの商店で何がもらえるかは絵金蔵受付でくじを引いてからのお楽しみです。
 ※引換券の配布は9時30分〜16時30分まで。引換券が無くなり次第終了。プレゼント引換券は大人料金300円で入館された方のみ配布。当日のみ有効



絵金蔵スタッフの皆さんです

■運営委員会会長・浜田義隆さん
 赤岡町出身。お餅屋さんを経営しながら、15年間ずっと会長として絵金蔵の運営に携わってきました。



■蔵長(館長)・澤田美枝さん
 赤岡町出身。古民家と模型作りが好きで、20年前に作った赤岡町の古民家の模型が、絵金蔵の二階で一列に展示されています。



■学芸員・福原明理さん
 福岡県出身。大学時代に古民家が好きになり、絵金蔵の近隣にある「赤れんが商家」の再生チームの一員にもなって活動しています。



■学芸員・吉川琴子さん
 高知市出身。自主上映会をハシゴするほど映画が好きで、絵金蔵15周年記念の映画上映会を企画した方でもあります。



■受付主任・鶴見さくらさん
 高知市出身。大学時代にデザインの勉強をしていたので、受付のほかに絵金蔵関連のポスターやチラシの制作を担当しています。



記念企画はまだまだ続きます!
 どうぞお楽しみに♪

